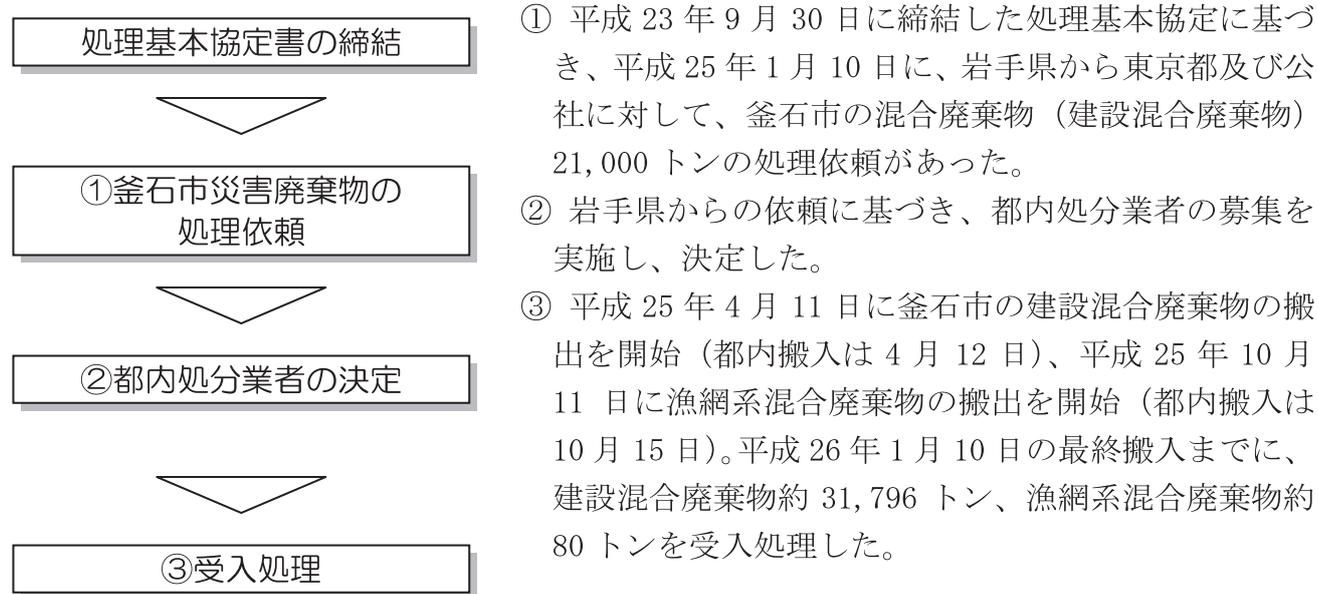


(5) 岩手県釜石市混合廃棄物（建設混合廃棄物、漁網系混合廃棄物）

ア 受入処理までの経過概要



イ 岩手県からの処理依頼概要

釜石市の災害廃棄物処理必要量は、岩手県内でも 3 番目に多く、県内だけでは処理能力が不足し、広域支援先も未定となっており、処理の見通しが立っていない状況であった。そのため、岩手県は、平成 25 年 1 月 10 日に、東京都に対し処理依頼を行った。

■ 岩手県からの処理依頼概要

搬出場所	岩手県釜石市片岸町第3地割(釜石市片岸仮置場)		
災害廃棄物の種類、量	混合廃棄物 (建設混合廃棄物)	約 21,000 トン⇒約 28,000 トン ^{※1}	
	混合廃棄物 (漁網系混合廃棄物)	0 トン⇒約 630 トン ^{※1}	
搬出期間(予定)	平成 25 年 4 月から平成 25 年 12 月まで ⇒平成 25 年 4 月から平成 26 年 1 月まで ^{※2}		
運搬方法	鉄道貨物輸送		
仮置場及び破碎選別の状況	岩手県釜石市片岸町第3地割(釜石市片岸仮置場)から、建設混合廃棄物を合計約 21,000 トン(最大)搬出する。 なお、仮置場にある混合廃棄物を危険物及び有害性(アスベスト含有物等)のものを除去する粗選別を行い、選別した建設混合廃棄物を搬出する。但し、破碎は行わない。		
放射能の状況	災害廃棄物	岩手県釜石市片岸町第3地割(釜石市片岸仮置場)の建設混合廃棄物	
		採取年月日	平成 24 年 11 月 21 日
		放射能濃度	(¹³⁴ Cs+ ¹³⁷ Cs) 101~148 Bq/kg

※1 岩手県からの依頼内容変更(平成 25 年 8 月 5 日付)

※2 岩手県からの依頼内容変更(平成 25 年 11 月 1 日付)



釜石市仮置場の状況（建設混合廃棄物：平成 24 年 12 月 20 日撮影）



釜石市仮置場の状況（漁網系混合廃棄物：平成 25 年 8 月 20 日撮影）

▶ 混合廃棄物の受入基準への追加事項

漁網系混合廃棄物については、次の受入基準を追加するとともに、2週間に1回程度の頻度で、塩素及び硫黄の含有量並びに鉛又はその化合物の溶出量の試験を行うこととした。

■ 漁網系混合廃棄物の受入基準

検査対象	試験内容	受入基準
塩素	含有量試験	2% (dry) 以下
硫黄	含有量試験	1% (dry) 以下
鉛又はその化合物	溶出試験	0.3mg/L 以下

ウ 処分業者の募集経過及び決定（平成 25 年 2 月 21 日）

（ア）決定日

平成 25 年 4 月から 6 月までの分 : 平成 25 年 2 月 21 日（木）決定

平成 25 年 7 月から 9 月までの分 : 平成 25 年 6 月 4 日（火）決定

平成 25 年 10 月から 12 月までの分 : 平成 25 年 9 月 17 日（火）決定

（イ）処分業者、処分場所及び処理量

平成 25 年 4 月から平成 26 年 12 月までの処分業者は岩手県により次表の業者に決定された。また、依頼内容の変更により、処理期間を平成 26 年 1 月まで延長した。

■ 処分業者別受入処理期間及び受入処理量等（建設混合廃棄物）

事業者名称	施設名称	受入期間	受入処理量 [単位：ト]
株式会社 リサイクル・ピア	東京エコタウン工場 (大田区城南島 3-4-3)	平成 25 年 4 月～平成 26 年 1 月	11,573.67
高俊興業株 式会社	東京臨海エコ・プラント (大田区城南島 3-2-15)	平成 25 年 4 月～平成 26 年 1 月	10,630.74
有明興業株 式会社	若洲工場 (江東区若洲 2-8-25)	平成 25 年 4 月～12 月	9,592.54
合計			31,796.95

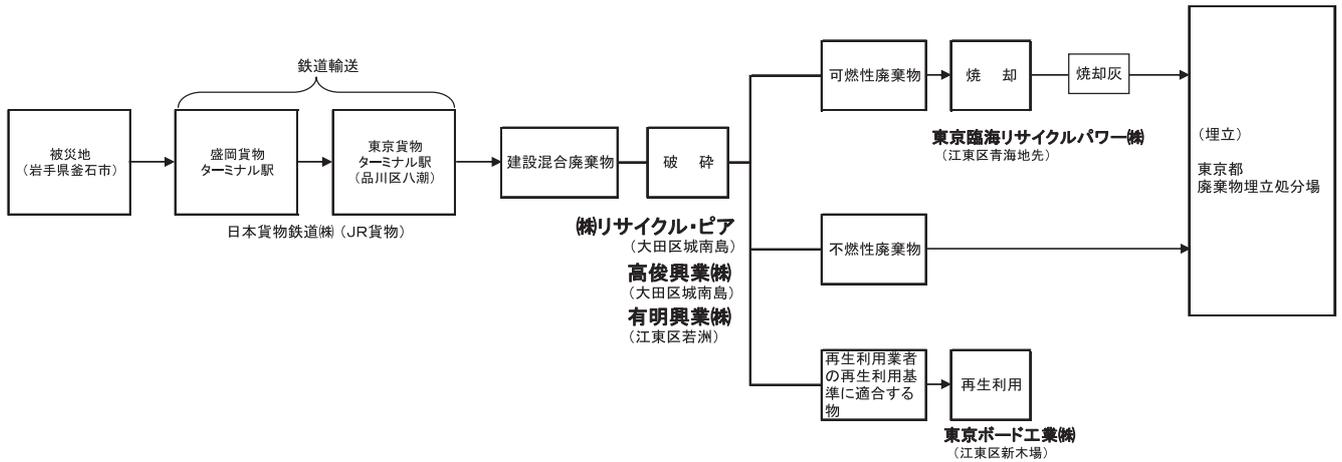
※順不同

■ 処分業者別受入処理期間及び受入処理量等（漁網系混合廃棄物）

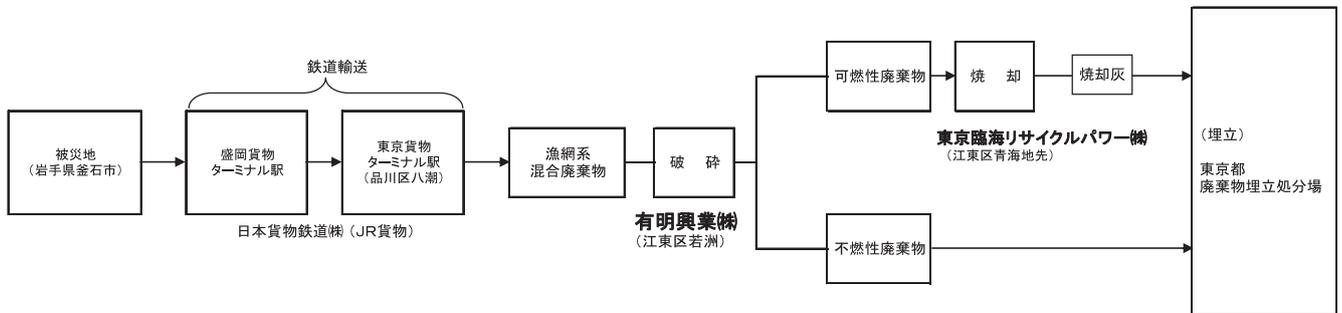
事業者名称	施設名称	受入期間	受入処理量 [単位：ト]
有明興業株 式会社	若洲工場 (江東区若洲 2-8-25)	平成 25 年 10 月～平成 26 年 1 月	80.05

(ウ) 災害廃棄物処理の流れ

建設混合廃棄物



漁網系混合廃棄物



エ 災害廃棄物の受入実績

(ア) 受入期間と受入量

搬出期間：平成 25 年 4 月 11 日（木）から平成 26 年 1 月 10 日（金）まで

受入期間：平成 25 年 4 月 12 日（金）から平成 26 年 1 月 13 日（月）まで

受入実績：約 31,876 トン（12ft コンテナ 3,935 基、20ft コンテナ 1,870 基）

(イ) 環境対策結果

➤ 放射能測定

混合廃棄物（建設混合廃棄物）の搬出時 3 回の空間線量率測定結果は、次のとおりいずれも基準値を超えることがなく、放射能の影響は確認されなかった。

■ 釜石市の空間線量率測定結果（平成 25 年 4 月～平成 26 年 1 月分）

（単位： $\mu\text{Sv/h}$ ）

建設混合廃棄物	ストックヤード			コンテナ両側面
	空間線量率		遮蔽線量率	空間線量率
搬出基準	$A \leq 3 \times B$		$A \leq 0.01$	—
測定場所	測定ヤード (A)	バックグラウンド (B)	ストックヤード (A)	コンテナ両側面
測定結果	0.06～0.11	0.06～0.09	0.000～0.006	0.04～0.08 (平均値：0.06)

漁網系 混合廃棄物	ストックヤード			コンテナ両側面
	空間線量率		遮蔽線量率	空間線量率
搬出基準	A ≤ 3 × B		A ≤ 0.01	—
測定場所	測定ヤード (A)	バックグラウンド (B)	ストックヤード (A)	コンテナ両側面
測定結果	0.07～0.08	0.06～0.08	0.001～0.005	0.05～0.07 (平均値：0.06)

■ 釜石市建設混合廃棄物の放射能濃度（受入期間中毎月1回測定）

	木くず	廃プラスチック	紙くず	繊維くず	その他
放射能濃度 (Bq/kg)	ND～52	ND～90	ND	92～490	ND～53
遮蔽線量率 (μ Sv/h)	0.000～0.003	0.000～0.003	0.000～0.001	0.001～0.004	0.000～0.001

■ 釜石市漁網系混合廃棄物の放射能濃度（平成25年10月測定）

	木くず	廃プラスチック	紙くず	繊維くず	その他
放射能濃度 (Bq/kg)	ND	87	—※	139	—※
遮蔽線量率 (μ Sv/h)	0.002	0.001	—※	0.004	—※

ND：検出下限値未満

※ストックヤード内に「紙くず」及び「その他」が含まれていないため欠測

オ 受入成果

混合廃棄物（建設混合廃棄物）約31,876トンを受入処理することにより、釜石市の建設混合廃棄物の処理に一定の目処が付いた。

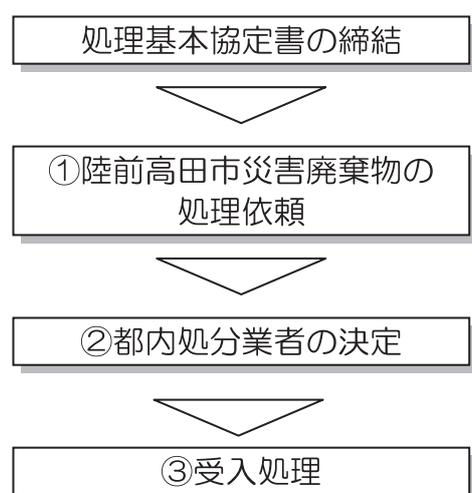
■ 釜石市災害廃棄物処理の推移



釜石市建設混合廃棄物の推移（釜石市二次仮置場）

(6) 岩手県陸前高田市混合廃棄物（建設混合廃棄物）

ア 受入処理までの経過概要



- ① 平成 23 年 9 月 30 日に締結した処理基本協定に基づき、平成 25 年 1 月 10 日に、岩手県から東京都及び公社に対して、陸前高田市の混合廃棄物（建設混合廃棄物）29,000 トンの処理依頼があった。
- ② 岩手県からの依頼に基づき、都内処分業者の募集を実施し、決定した。
- ③ 平成 25 年 4 月 12 日に陸前高田市の混合廃棄物（建設混合廃棄物）の搬出を開始（都内搬入は 4 月 17 日）。平成 25 年 11 月 29 日の最終搬入までに、約 31,123 トンを受入処理した。

イ 岩手県からの処理依頼概要

陸前高田市の災害廃棄物処理必要量は、岩手県内最大となっており、県内だけでは処理能力が不足し、広域支援先も未定となっており、処理の見通しが立っていない状況であった。そのため、岩手県は、平成 25 年 1 月 10 日に、東京都に対し処理依頼を行った。

■ 岩手県からの処理依頼概要

搬出場所	岩手県陸前高田市高田町下宿（陸前高田市沼田地区二次仮置場）		
災害廃棄物の種類、量	混合廃棄物 （建設混合廃棄物）	約 29,000 トン⇒約 42,000 トン※	
搬出期間（予定）	平成 25 年 4 月から平成 25 年 12 月まで ⇒平成 25 年 4 月から平成 26 年 1 月まで※		
運搬方法	鉄道貨物輸送		
仮置場及び破碎選別の状況	岩手県陸前高田市高田町下宿（陸前高田市沼田地区二次仮置場）から、建設混合廃棄物を合計約 29,000 トン搬出する。 なお、仮置場にある混合廃棄物を危険物及び有害性（アスベスト含有物等）のものを除去する粗選別を行い、選別した建設混合廃棄物を搬出する。但し、破碎は行わない。		
放射能の状況	災害廃棄物	岩手県陸前高田市高田町下宿（陸前高田市沼田地区二次仮置場）の建設混合廃棄物	
		採取年月日	平成 24 年 11 月 15 日
		放射能濃度	(¹³⁴ Cs + ¹³⁷ Cs) 68 Bq/kg

※ 岩手県からの依頼内容変更（平成 25 年 8 月 5 日付）



陸前高田市仮置場の状況（平成 24 年 12 月 19 日撮影）

ウ 処分業者の募集経過及び決定（平成 25 年 2 月 21 日）

（ア）決定日

平成 25 年 4 月から 6 月までの分：平成 25 年 2 月 21 日（木）決定

平成 25 年 7 月から 9 月までの分：平成 25 年 6 月 4 日（火）決定

平成 25 年 10 月から 12 月までの分：平成 25 年 9 月 17 日（火）決定

（イ）処分業者、処分場所及び処理量

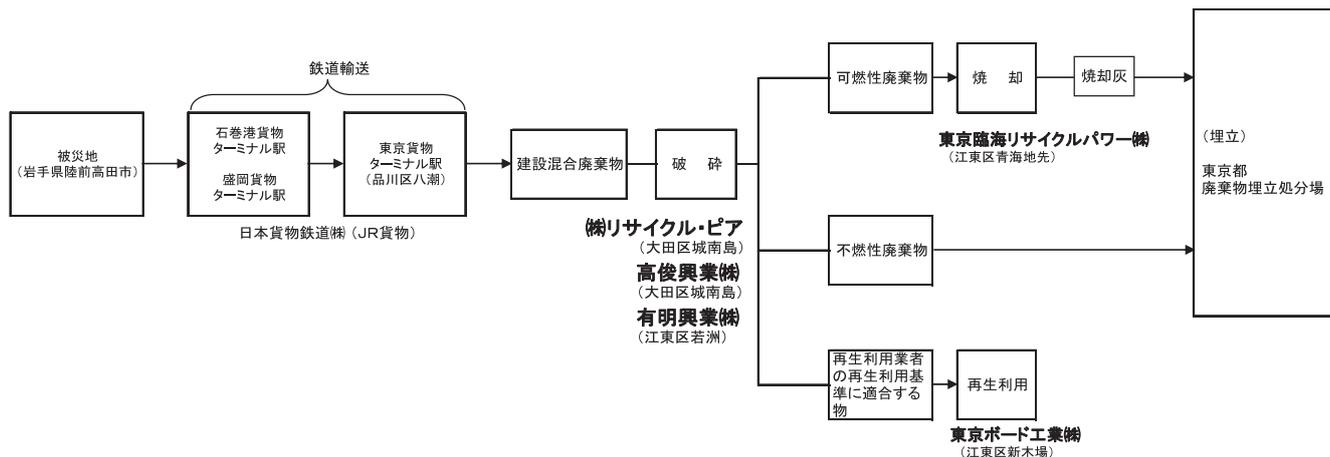
平成 25 年 4 月から平成 26 年 12 月までの処分業者は岩手県により次表の業者に決定された。

■ 処分業者別受入処理期間及び受入処理量等

事業者名称	施設名称	受入期間	受入処理量 [単位：ト]
株式会社 リサイクル・ピア	東京エコタウン工場 (大田区城南島 3-4-3)	平成 25 年 4 月～12 月	10,969.37
高俊興業株 式会社	東京臨海エコ・プラント (大田区城南島 3-2-15)	平成 25 年 4 月～12 月	10,577.07
有明興業株 式会社	若洲工場 (江東区若洲 2-8-25)	平成 25 年 4 月～12 月	9,577.1
合計			31,123.54

※順不同

(ウ) 災害廃棄物処理の流れ



エ 災害廃棄物の受入実績

(ア) 受入期間と受入量

搬出期間：平成 25 年 4 月 12 日（金）から平成 25 年 11 月 29 日（金）まで

受入期間：平成 25 年 4 月 17 日（水）から平成 25 年 12 月 2 日（月）まで

受入実績：約 31,123 トン（12ft コンテナ 7,597 基）

(イ) 環境対策結果

➤ 放射能測定

混合廃棄物（建設混合廃棄物）の搬出時 3 回の空間線量率測定結果は、次のとおりいずれも基準値を超えることがなく、放射能の影響は確認されなかった。

■ 陸前高田市の空間線量率測定結果（平成 25 年 4 月～11 月分）

（単位： $\mu\text{Sv/h}$ ）

	ストックヤード			コンテナ両側面
	空間線量率		遮蔽線量率	空間線量率
搬出基準	$A \leq 3 \times B$			$A \leq 0.01$
測定場所	バックグラウンド (B)	測定ヤード (A)	ストックヤード (A)	コンテナ両側面
測定結果	0.04～0.08	0.03～0.08	0.000～0.005	0.03～0.07 (平均値：0.04)

■ 陸前高田市建設混合廃棄物の放射能濃度（受入期間中毎月 1 回測定）

	木くず	廃プラスチック	紙くず	繊維くず	その他
放射能濃度 (Bq/kg)	ND～93	ND～90	ND	209～590	ND
遮蔽線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)	0.000～0.003	0.000～0.004	0.000～0.001	0.001～0.004	0.000～0.002

ND：検出下限値未満

オ 受入成果

混合廃棄物（建設混合廃棄物）約 31,123 トンを受入処理することにより、陸前高田市の建設混合廃棄物の処理に一定の目処がついた。

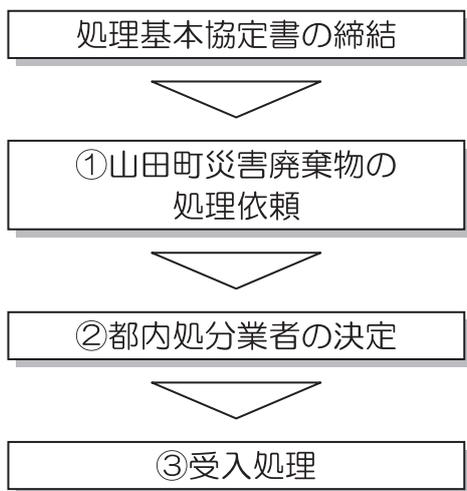
■ 陸前高田市災害廃棄物処理の推移

陸前高田市の災害廃棄物が集積された一次仮置場では、東京都が建設混合廃棄物を受入れ処理したことによって、その場所が土砂等の資材置き場に利用されるようになった。



(7) 岩手県山田町混合廃棄物（廃プラ系混合廃棄物）

ア 受入処理までの経過概要



- ① 平成 23 年 9 月 30 日に締結した処理基本協定に基づき、平成 25 年 4 月 22 日に、岩手県から東京都及び公社に対して、山田町の混合廃棄物（廃プラ系混合廃棄物）3,000 トンの処理依頼があった。
- ② 岩手県からの依頼に基づき、都内処分業者の募集を実施し、決定した。
- ③ 平成 25 年 7 月 1 日に山田町の混合廃棄物（廃プラ系混合廃棄物）の搬出を開始（都内搬入は 7 月 2 日）。平成 25 年 9 月 19 日の最終搬入までに、約 1,330 トンを受入処理した。

イ 岩手県からの処理依頼概要

山田町では、災害廃棄物（木くず等の可燃物）は、現地等の清掃工場及び仮設焼却炉で処理していたが、当該施設では処理することのできない廃プラスチックを多く含む高カロリーな災害廃棄物は、山積みそのままになっている状況であった。そのため、岩手県は、平成 25 年 4 月 22 日に、東京都に対し処理依頼を行った。

■ 岩手県からの処理依頼概要

搬出場所	岩手県大槌町大槌地先（大槌地区二次仮置場）		
災害廃棄物の種類、量	混合廃棄物 （廃プラ系混合廃棄物）	約 3,000 トン⇒約 1,500 トン※	
搬出期間（予定）	平成 25 年 7 月から平成 25 年 12 月まで ⇒平成 25 年 7 月から平成 25 年 9 月まで※		
運搬方法	鉄道貨物輸送		
仮置場及び破碎選別の状況	岩手県山田町の混合廃棄物を合計約 3,000 トン搬出する。 なお、仮置場にある混合廃棄物から危険物及び有害性（アスベスト含有物等）のものを除去する粗選別を、山田町船越（山田町混合廃棄物処理ヤード）で行い、選別した混合廃棄物を、岩手県大槌町大槌地先（大槌地区二次仮置場）に保管し、そこから搬出する。但し、破碎は行わない。		
放射能の状況	災害廃棄物	岩手県山田町船越（山田町混合廃棄物処理ヤード）の廃プラ系混合廃棄物	
		採取年月日	平成 24 年 11 月 12 日～16 日
		放射能濃度	(¹³⁴ Cs + ¹³⁷ Cs)ND～140 Bq/kg ※ 可燃物を組成ごとに測定した結果

※ 岩手県からの依頼内容変更（平成 25 年 8 月 5 日付）



山田町仮置場の状況（平成 25 年 5 月 10 日撮影）

ウ 処分業者の募集経過及び決定（平成 25 年 6 月 4 日）

（ア）決定日

平成 25 年 7 月から 9 月までの分：平成 25 年 6 月 4 日（火）決定

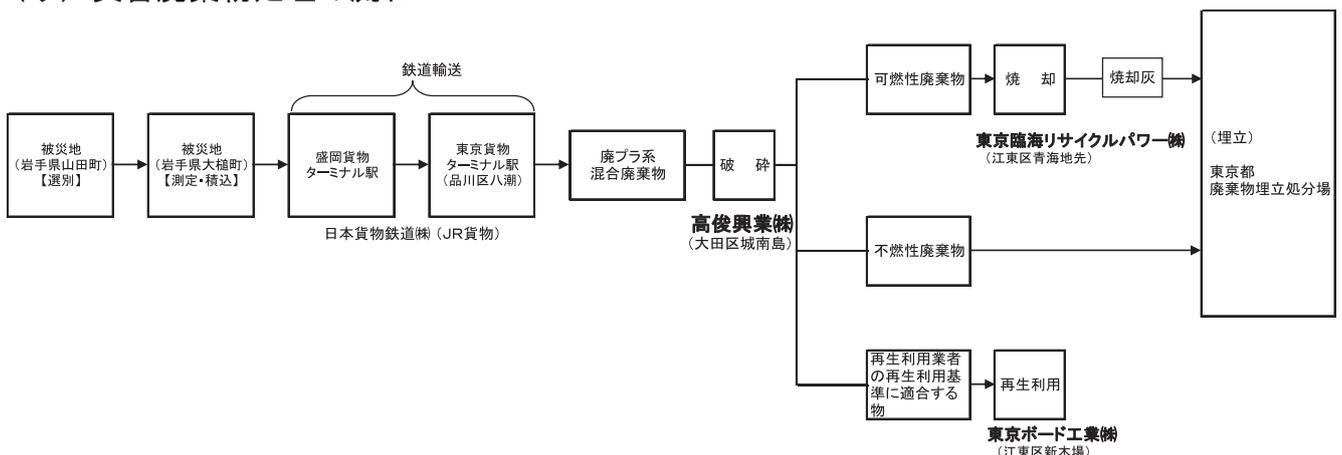
（イ）処分業者、処分場所及び処理単価

平成 25 年 7 月から平成 26 年 12 月までの処分業者は岩手県により次表の業者に決定された。また、依頼内容の変更により、処理期間を平成 25 年 9 月までに短縮した。

■ 処分業者別受入処理期間及び受入処理量等

事業者名称	施設名称	受入期間	受入処理量 [単位：ト]
高俊興業株式会社	東京臨海エコ・プラント (大田区城南島 3-2-15)	平成 25 年 7 月～9 月	1,330.75

（ウ）災害廃棄物処理の流れ



エ 災害廃棄物の受入実績

(ア) 受入期間と受入量

搬出期間：平成 25 年 7 月 1 日（月）から 9 月 19 日（木）まで

受入期間：平成 25 年 7 月 2 日（火）から 9 月 21 日（土）まで

受入実績：約 1,330 トン（12ft コンテナ 270 基、20ft コンテナ 119 基）

(イ) 環境対策結果

▶ 放射能測定

混合廃棄物（建設混合廃棄物）の搬出時 3 回の空間線量率測定結果は、次のとおりいずれも基準値を超えることがなく、放射能の影響は確認されなかった。

■ 山田町の空間線量率測定結果（平成 25 年 4 月～11 月分） （単位： $\mu\text{Sv}/\text{h}$ ）

	ストックヤード		コンテナ両側面	
	空間線量率		遮蔽線量率	空間線量率
搬出基準	$A \leq 3 \times B$		$A \leq 0.01$	—
測定場所	測定ヤード (A)	バックグラウンド (B)	ストックヤード (A)	コンテナ両側面
測定結果	0.06～0.09	0.06～0.09	0.000～0.005	0.04～0.09 (平均値：0.06)

■ 山田町廃プラ系混合廃棄物の放射能濃度（受入期間中毎月 1 回測定）

	木くず	廃プラスチック	紙くず	繊維くず	その他
放射能濃度 (Bq/kg)	ND	42～50	—※	106～161	ND～48
遮蔽線量率 ($\mu\text{Sv}/\text{h}$)	0.000～0.001	0.000～0.002	—※	0.001～0.003	0.000～0.001

ND：検出下限値未満

※ストックヤード内に「紙くず」及び「その他」が含まれていないため欠測

オ 受入成果

混合廃棄物（廃プラ系混合廃棄物）約 1,330 トンを受入処理することにより、山田町の建設混合廃棄物の処理に一定の目処がついた。

■ 山田町災害廃棄物処理の推移



山田町廃プラ系混合廃棄物の推移（山田町仮置場）